



Health

第 56 回日本医学教育学会大会 共催ランチョンセミナー

トップリーダーの視点： 大学がめざす医学教育と独自性

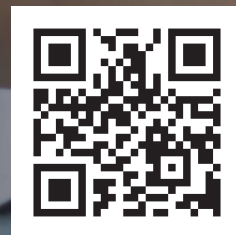
日時 2024年 8月10日(土) 12:00-12:50

会場 第5会場 203 講義室

(帝京大学板橋キャンパス 大学棟本館 2階)

参加方法 (整理券制)

- ※ 第56回日本医学教育学会大会の参加登録が必要です。
詳しくは大会HP(右のQRコード)をご覧ください。
- ※ 本ランチョンセミナーは整理券制です(先着順)。
配布時間・配布場所の詳細は大会HPでご確認ください。
- ※ 整理券はセミナー開始時間から5分後に無効となります。
空席がある場合は整理券をお持ちでない方も入場できます。



問い合わせ エルゼビア・ジャパン株式会社 マーケティング部 ✉ marketing_jp@elsevier.com



Health

第 56 回日本医学教育学会大会
共催ランチョンセミナー

トップリーダーの視点： 大学がめざす医学教育と独自性



座長 日本医学教育評価機構 常勤理事 **奈良 信雄 先生**

国際基準対応や医学教育モデル・コア・カリキュラム改訂により日本の医学教育は変革期を迎えています。

- 学習範囲が増加する中で大学は学生に何をどのように教えようとしているのか？
- カリキュラムの独自性を如何にして発揮しようとしているのか？
- そのためには何が必要なのか？

各大学の試行錯誤を共有し、大学としての課題解決を考える機会とします。

講演 1 兵庫医科大学 学長 **鈴木 敬一郎 先生**

正しい学修を導く評価を目指して

— 作問・ブラッシュアップから事後評価、ClinicalKey Student、AI の利用まで —



サイエンスとしての医学は独創性が重要である一方、臨床現場では適切な診断とエビデンスのある治療が求められる。そのため国試や CBT は MCQ が採用され、卒業試験でも同様である。学生は試験を通るための勉強をする傾向があり、学内試験は適切な成績評価だけでなく、学生に正しい学修を導く良問の出題が重要である。しかし、MCQ・記述式ともに教員の作問には課題が多い。作問段階からの指導、問題の点検・ブラッシュアップが必要である。試験問題の正答率、識別係数、他の試験との相関なども事後評価において重要である。ここでは兵庫医大における取り組み、エルゼビア社 ClinicalKey Student など外部資料の利用を概説し、将来における AI 活用にも触れたい。

講演 2 横浜市立大学 学長 **石川 義弘 先生**

日本の医学教育はどこをめざすのか



医師養成に必要とされる内容は時代とともに変化する。かつては医療現場で診療にあたる医師育成のみに主眼が置かれていた時代から、昨今では医学部を卒業しても、必ずしも診療の現場に立つのではなく、いわゆるヘルスケア産業や一般企業で働く医師や起業家育成にも関心が向けられている。教育方法も教えるから習うに進化した。さらには医学研究を志す医師の減少から、卒後研修プログラムに研究活動を導入したのも増えている。このような我が国における変化を世界の潮流から読み取り、グローバルな医療界における我が国のプレゼンスをどうするのかを検討したい。

日 時 2024 年 8 月 10 日(土) 12:00-12:50

会 場 第 5 会場 203 講義室 (帝京大学板橋キャンパス 大学棟本館 2 階)

参加方法 第 56 回日本医学教育学会大会の参加登録、ならびに当日配布される整理券が必要です。詳しくは大会 HP をご確認ください。

問い合わせ エルゼビア・ジャパン株式会社 マーケティング部 ✉ marketing_jp@elsevier.com